

王なるメシヤへの従順

(日)

畏れつつ、主に仕えよ。震えつつ、喜び躍れ。子に口づけせよ。……幸いな者、すべて主のもとに逃れる人は。（11、12）

この詩は、神が立てられた王に従うことが高いの道であることを教えて います。この詩は、イエス・キリストにおいて成就したと教会は受け止めて きました。主イエスが受洗されたとき、この7節の言葉に基づいて、「これは私の愛する子」（マタイ三17）という声がかけられました。主イエスこそ、神によつて油注がれた真の王であり、メシアであるという宣言でした。教会の祝福は、王なるキリストに仕えていくところにあります。真の王に逆らつて自分たちが王となつてしまふこ とがないように、自分たちの歩みを振り返り、キリストを王として正しく位置づけることが求められています。ただ主イエスだけを王として礼拝し、仕えていくところに教会の祝福があるからです。この年も、ただ主イエスだけを王として畏れ敬い、喜びをもつて仕えていく私たちの教会でありたいと心から願います。